

第七十四回
帝國議會
貴族院

宗教團體法案特別委員會會議事速記録第一號

付託議案

宗教團體法案

寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ
處分ニ關スル法律案

委員氏名

委員長 伯爵柳原 義光君
副委員長 男爵松岡 均平君

公爵一條 實孝君

侯爵細川 護立君

侯爵久我 通顯君

子爵大河内輝耕君

子爵岡部 長景君

子爵舟橋 清賢君

男爵千秋 季隆君

小原 直君

岡 喜七郎君

塚本 清治君

下村 宏君

男爵北島 貴孝君

田所 美治君

大塚 惟精君

久保市三郎君

仲田傳之助君

昭和十四年一月二十五日(水曜日)午前十
時二十三分開會

○委員長(伯爵柳原義光君) ソレデハ是ヨ

リ宗教團體法案外一件ノ特別委員會ヲ開會
致シマス、誠ニ不肖ナガラ私ガ委員長ヲ勤
メマスル、何分宜シク御引廻シテ願ヒマス、
文部大臣

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 宗教團體法

案提出ノ理由ト其ノ内容ノ概略ニ付キマシ

テハ、昨日ノ本會議ノ席上デ申述ベタノデ

アリマスルガ、更ニ之ヲ補足致シマシテ、

少シク御説明申上ゲタイト存ジマス、宗教

團體ニ關スル現行ノ法規ハ、概ネ明治初年

ノ法制未ダ整ハザル間ニ定メラレタル太政

官布告、布達、或ハ省令、訓令等種々雜多

ナルモノカラ成ッテ居リマシテ、悉ク斷片

的デアリマシテ、其ノ數ハ三百有餘ニ及シ

テ居ルノデアリマス、又其ノ適用上往々ニ

シテ疑義ヲ生ジ易ク、行政上ノ不便ハ申ス

ニ及バズ、延イテハ宗教團體ノ發達ト、其

ノ教化活動ヲ阻害スルコトガ尠クナカッタ

モノガアルノデアリマス、從ヒマシテ茲ニ

宗教行政ノ根本法規ヲ制定致シマシテ、煩

スル國家ノ保護監督其ノ適正ヲ得ルト共
ニ、他面宗教教化活動ニ便益多カラシムル
コトハ、最モ必要ナルコトト思考致ス次第
デアリマス、今本案内容ノ重ナルモノヲ申
上ゲマスルト、現ニ神佛敎宗派ニ關スル根
本法規トシマシテハ、僅ニ明治十七年ノ太
政官布達ノ存スルノミデアリマシテ、從ッテ
其ノ法上ノ地位ハ甚ダ不明確ヲ免レナイノ
デアリマス、又基督教其ノ他ノ敎團ニ於キ
マシテハ、法規ノ上ニ何等ノ根據ヲモ有セ
ナカッタ現狀デアリマスルノデ、今回本法ヲ
以テ、是等ニ對シテ法上ニ其ノ基礎ヲ明
カニ致スコトト致シタノデアリマス、更ニ
是等ノ中法人タラムトスルモノニ對シマシ
テハ、新ニ其ノ途ヲ開クコトト致シマシテ、
日常ニ於テ各種ノ法律行為ヲ營ム上ニ於テ
ノ、從來ノ甚シキ不便ヲ除去致シマシテ、
以テ其ノ旺盛ナル教化活動ヲ促スノ一助
タラシメムト致シタノデアリマス、本法案
第三條乃至第五條ハ、即チ此ノ神道敎派、
佛敎宗派、基督教其ノ他ノ宗教ノ敎團ニ關
スル規定デアリマシテ、敎規、宗制或ハ敎
團規則、管長及敎團統理者等ニ關シマスル
規定ヲ茲ニ包含致シテ居ルノデアリマス、

尙申ス迄モナク各敎宗派、敎團ニ對シマシ
テハ、ソレノノ歴史或ハ沿革、傳統ニ依
ル特殊性ヲ尊重致スコトニ付テハ十分ニ留
意シテ居ルノデアリマス、又其ノ内部ノ事
ニ關シマシテハソレノノ自治ニ委スルコ
トヲ以テ原則ト致シテ居ルノデゴザイマス、
更ニ寺院及敎會ニ關シマシテモ、寺院規則
敎會規則或ハ住職、敎會主管者等ニ關シマ
スル基礎的法規ヲ制定致シマスルト共ニ、
寺院財産又ハ敎會財産ノ管理ノ公正ト堅實
ナル運用ヲ期セムガ爲ニ、財産管理及處分
ニ關スル規定ヲ整ヘタノデアリマス、法案
ノ第六條カラ第十二條迄ノ規定ガ此ノ部分
ニ當ッテ居リマス、又宗教團體ニ對スル保
護監督ニ遺憾ナキヲ期シマシテ、一方所得
稅、地租、登録稅等ニ關スル免稅ノ範圍ヲ
擴張シ、或ハ土地建物及重要動産ニ對スル
差押禁止ノ規定ヲ設ケマシテ、又行政上萬
一ノ不當處分アル場合訴訟、行政訴訟ノ途
ヲ開キマシテ、其ノ救済ヲ講ジテ居リマス、
又他方宗教ノ敎義ノ宣布、儀式ノ執行ガ安
寧秩序ヲ妨ゲ、臣民タルノ義務ニ背ク場合
ニ於ケル監督規定及敎義ノ宣布、儀式ノ執
行以外ノ行為ガ、法令又ハ宗教團體ノ成規

ニ違反シ、或ハ公益ヲ害セル場合ニ於ケル取締規定等ヲ設ケマシテ、以テ宗教團體ノ健全ナル發達ニ寄與セシメムト致シタノデアリマス、本法案ニ於マキシテハ右申述べマシタ宗教團體保護ノ規定ハ、第二十條乃至第二十二條ニ規定ヲ致シテ居リマスルシ、又監督ノ規定ハ第十六條乃至第十九條ニ互ッテ規定致シテ居ル次第デアリマス、新興宗教團體即チ所謂類似宗教團體ニ關スル規定ト致シマシテハ、法案ノ第二十三條乃至第二十五條ガ是デアリマスルガ、此ノ新興宗教團體ニ對シマシテハ、從來專ラ警察取締ニノミ委セテ參ツタノデアリマスガ、現下ノ思想界ノ實情ニ鑑ミマシテ、之ガ設立ニ當ッテ届出ヲナサシメテ、之ガ監督ニ遺憾ナキヲ期シ、一方又其ノ善良ナルモノノ發達ヲ指導致シ得ルヤウニ致シテ居ルノデアリマス、併シナガラ申ス迄モナク憲法ニ定メテアリマスル信教ノ自由ニ付キマシテハ、毫末モ之ヲ冒スコトナキヤウ留意致シテ居ル次第デアリマス、尙本法案ハ本會議ニ於テモ申述べマシタ如ク、其ノ立案ニ當リマシテハ、十分慎重ナル態度ヲ以テ、從來開示セラレテ居リマシタ各般ノ意見ヲ十分參照シ、慎重考究ノ上、其ノ要綱ヲ宗教制度調査會ニ御諮リ致シマシテ、全會一致其ノ

可決ヲ見マシテ、ソレニ基キマシテ御意見ノ點ヲ十分ニ參酌、加除訂正致シマシテ、以テ本法案ヲ得ルニ至ツタノデゴザイマス、幸ニ本法案ガ成立致シマスルナラバ、宗教行政ハ圓滑ニ運営セラレ、又宗教團體ノ刷新振興ニ寄與シ、殊ニ斯克ノ如キ時局ニ於キマシテ、生ジ易キ淫祠邪教ヲ事前ニ防止スルト共ニ、健全ナル宗教ノ發達ヲ助長スルコトガ出來ルト信ズルノデアリマス、斯クテ現下ノ時局ニ處シテ、前途ニ横ハル幾多ノ試練ニ遭遇シテモ人心ノ動搖ヲ防ギ、又志氣ヲ振起シ愈、國ノ總力ヲ擧ゲテ帝國所期ノ目的達成ノ任ヲ盡スニ役立ツコトト存ジマス、此ノ見地ニ立チマシテ本法案ノ整備ガ一日モ速カナラムコトヲ考ヘテ居ル次第デアリマス、尙細目ニ互リマシテハ、御質問ニ對シテ私或ハ政府委員ヨリ御答辯申上ゲルコトニ致シマス、以上ヲ以テ御説明ヲ終リマス

○委員長(伯爵柳原義光君) 諸君ニ御諮リ致シマスガ、境内地ノ説明モ此ノ際併セテ政府側カラ聽キタイト存ジマスガ、如何デスカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○委員長(伯爵柳原義光君) ソレデハ左様取計ヒマス、ドウゾ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(松村光三君) 寺院等ニ無償ニテ貸付ケアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ノ御説明ヲ申上ゲマス、寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ニ付キマシテハ、昨日モ本會議ニ於キマシテ私ヨリ御説明申上ゲタノデアリマスルガ、尙此ノ機會ニ於キマシテ更ニ少シク詳細ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、今回宗教團體法案ノ提出ニ際シマシテ、政府ハ是ト共ニ寺院佛堂ノ國有境内地ノ讓與ノ問題ヲ解決スルヲ適當ト認メマシテ、寺院等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ關スル法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、御承知ノ通り寺院佛堂ノ國有境内地讓與ノ問題ハ多年ノ懸案デアリマシテ、明治四十三年以來或ハ請願トシテ或ハ法律案トシテ帝國議會ニ於テ審議セラレタノデアリマスルガ、政府ニ於キマシテハ、常ニ寺院佛堂ノ財産管理ノ方法ガ完備スルニ於テハ、適當ニ之ヲ解決スベキ旨發表シ來ツタノデアリマス、然ルニ今回提案セラレマシタ宗教團體法案ガ成立ノ曉ニ於キマシテハ、寺院佛堂ノ財産管理ノ方法モ完備スルコトナリマスルカラ、宗教團體ヲ保護シテ其ノ教化作用ヲ十分ニ遂ゲシムル爲ニ、古來寺院佛堂ト特殊ノ沿革ノ關係ヲ有シマ

スル國有境内地ヲ、適當ナル條件ノ下ニ讓與スルコトト致シタ次第デアリマス、本法案ノ概要ヲ申上ゲマスルト、第一ハ讓與ニ關スル事項デアリマシテ、本法施行ノ際現ニ寺院佛堂ニ無償ニテ貸付シテアリマスル國有財産ハ、一定ノ期間内ニ申請ガアリマシタナラバ、境内地トシテ必要ナリト認メラル、モノハ、之ヲ當該寺院等ニ讓與セムトスルノデアリマス、而シテ此ノ讓與ノ決定ヲ慎重且公正ナラシムル爲ニ、寺院境内地處分審查會ヲ設ケテ之ニ諮問スルコトト致スノデアリマス、更ニ又讓與處分ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ得ルコトトシ、訴願ノ裁決ヲ爲スニ當リマシテハ、重ネテ寺院境内地處分審查會ニ諮問スルコトト致スノデアリマス、第二ハ賣拂ヒニ關スル事項デアリマシテ、讓與セザル部分ニ付キマシテハ一定期間内ニ賣拂ノ申請ガアリマシタナラバ、時價ノ半額ヲ以テ當該寺院等ニ賣拂ヲ爲シ、又賣拂代金ニ付テハ年賦延納ヲ認ムルコトト致スノデアリマス、尙讓與ヲ爲サザルコトニ決定致シタルモノニ付テハ、國有財産法第二十四條ノ貸付關係ヲ消滅セシムルコトトシ、賣拂ノ申請ヲ致シタナラバ、其ノ決定ニ至ル迄無償貸付ノ繼續ヲ認ムルコトト致スノデアリマス、以上ハ大體

ノ御説明ヲ申上ゲタ次第デアリマスルガ、
尙御質問ニ依リマシテ重ネテ御答致シタイ
ト存ジマス

○委員長(伯爵柳原義光君) 議事進行上御
質問ハ先ヅ宗教團體法案ニ關スル廣イ大體
ノ御質問ヲ願ヒマシテ、ソレカラ後ニ寺院
等ニ無償ニテ貸付シアル國有財産ノ處分ニ
關スル法律案ノ御質疑ヲ願ヒタイト存ジマ
ス

○田所美治君 文部大臣ノ御説明ヲ承リマ
シタ、又茲ニ前回ノ法案ト今回ノ法案ノ對
照モ受領致シテ居リマスガ、詳細比較致シ
タラ能ク分ルダラウト存ジマスガ、今度ノ
法案ハ僅カニ三十有餘條ノ、所謂法三章的
ノ原則ヲ規定サレルニ止マツテ居ルヤウデ
アリマシテ、他ハ勅令若シクハ其ノ他ノ命
令ニ讓ラレテ居ルヤウデアリマス、法律案
トシテ取扱ヒマスノニハ誠ニ簡明デ、又議
會ノ審議モ非常ナ、前回ヨリハ便宜ヲ得ル
コトダラウト存ジマス、前回、前々回カラ言
ヘバ多數ノ條文ガ削除サレテ居リマス、前回カ
ラ申シマシテモ九十九條ナドト云フモノニナッ
テ居リマスカラ、前回約百條バカリノガ、
今度ハ三十有餘條ニ縮メラレテ居ル、斯ウ
云フ譯デアアルデアリマスガ、一應此ノ際
政府委員カラドウ云フヤウナ内容及關係デ

簡明ニ斯ウナツタモノデアリマスカ、必ズ
ヤ是迄兩三回議會ニ御提案ニナツタ時分ノ
委員會ノ意見等ヲ御參酌ノ上、其ノ他又其
ノ後ノ宗教界ノ情勢ニ依ッテ斯クナツタコト
ト存ジマスルガ、大體首尾ノ上カラ條文ノ
比較デナシニ、ドウ云フヤウナ關係デ斯ウ
云フコトガ出來マシタカ、今度ノ法案作製
ノ上ニ付テノ御方針ト云ヒマスカ、内容ト
云ヒマスカ、形式ト云ヒマスカ、其ノ性質
上ノ分リ易イ一ツ御説明ヲ願ッテ置イタラ、
私ノミナラズ諸君ガ非常ニ審議ニ都合ガ好
イダラウト思ヒマス、尙モウ一ツハ簡單ニ
ナリマシタカラ命令ニ讓ラレタ條項ハ澤山
アルダラウト存ジマスガ、無論法律案ガ未
ダ出來マセヌ前ニ確定ノ命令案ハ出來テ居
リマスマイガ、勅令其ノ他ノ案ガ審議上參
考ニナルモノガアリマシタナラバ大凡ノ御
腹案ヲ御提出ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(松尾長造君) 只今ノ御尋ニ御
答申上ゲタイト存ジマス、只今仰セノ通り
ニ昭和二年ノ宗教法案ニ比較致シマス
ルト、非常ニ今度ノ案ハ減ッテ居リマス、
又昭和四年ノ宗教團體法案ニ比較致シマシ
テモ非常ナマア數ニ於キマシテ減少ヲ來タ
シテ居リマス、ドウ云フ譯デ是ガ減ッタカ
ニ付テノ、何ト申シマスカ、譯ヲ一應申ス

ヤウニト云フ御話デゴザイマス、是ハ先ヅ
第一ニ前回ノ貴族院ニ於ケル御審議ノ情
況等モ具サニ研究致シマシテ、色々ノ御意
見ガ御示シニナッテ居ラレマスノデ、成程ト
思ヒマシテ、斯ウ云フ條文ハ團體法ノ中カラ
減シテモ宜イノデヤナイカト思ヘルヤウナ
箇條ハ思切ッテ減シタノデゴザイマス、例ヘ
バ前案ニ於キマシテハ色々定義的ノ規定ト
申シマスカ、本法ニ於テ教派ト云フノハ斯
ウ云フモノダ、或ハ宗派ト云フノハ斯ウノ
云フモノダ、寺院ト云フモノハ斯ウ云フ
モノダト具サニ定義ヲ掲ゲテ居ルヤウナ點
ガゴザイマシタノデ、ソレ等ノコトハ本法
各條ヲ見レバ凡ソ諒解ガ付クノミナラズ、
一般ノ社會通念ニ委シテ置イテモ別ニ本法
運用上支障ハ來タスマイト云フ、斯ウ云フ
風ナ感じヲ持チマシタモノデアリマスカ
ラ、ソレヲ一ツ減シマシタト云ツタヤウナ
工合デ、不要ナリト私共デ見マシタ條文
ハ之ヲ取止メルコトニ致シマシタ結果、一
ツハ條文數ガ減リマシタノデゴザイマス、
ソレカラ又斯ウ云フ風ナ規定ハ寧ロ煩瑣ニ
互ルカラ、是ハ勅令其他ノ命令ニ規定シタ
方ガ適當デハアルマイカト、斯ウ思ハレル
ヤウナ規定ガ随分ゴザイマシタノデ、例ヘ
バ宗教團體ノ合併ニ關スル規定ト云フヤウ

ナ事柄ハ、前案ニ於キマシテハ、若シモ寺
院ガ合併セムトスル時ハ、若シ債權者ニ異
議ガアルナラバ、ドレダケノ期間内ニ異議
ノ申立ヲスルヤウニ、或ハ抗告ヲスルヤウ
ニト云ツタヤウナ規定ガゴザイマシタ、之ヲ
書キ立テレバ、アレモモト數箇條ニ相成
リマシテ、宗教團體法案トシテ結局ニ似合
ノ條文ガ相當數羅列サレルヤウナ結果ニ相
成リマスノデ、他ノ立法令ニモ徴シマシテ、
勅令等ニソレハ讓ラレルモノト考ヘマシタ
ノデ、勅令トカ命令ノ方ニ讓リ得ルモノハ
讓ツタヤウナ次第デゴザイマス、今申シマシ
タ結果カラ一ツハ減ッタノデアリマスガ、ソ
レカラ更ニモウ一ツノ理由ハ、御承知ノ通
リ本法ニモ規定シテゴザイマスルガ、各宗教
團體ニハ規則ガアルノデゴザイマス、教派
デハ教規ト申シ、宗派デハ宗制ト申シ、教
團デハ教團規則ト云ヒ、其ノ他寺院規則、
教會規則ト云ツタヤウナ、斯ウ云ツタ諸々ノ
宗教團體ニソレノ規則ガゴザイマス、
ソコデ此ノ條文ノ如キ寧ロ法律デ規定スル
ヨリモ、ソレ等ノ宗教團體ノ規則ニ規定サ
セタ方ガ適切デアラウト、斯ウ思ハレルヤ
ウナ條文ガ可ナリアツタヤウニ思ヒマス、
從ッテソレ等ハ讓リマシタ、例ヘバ一例ヲ申
上ゲマスナラバ、前案ニ於キマシテハ、宗

第四部第一類 宗教團體法案特別委員會議事速記録第一號 昭和十四年一月二十五日

教ニ關スル教師ノ規定ガアツタノデゴザイマス、御承知ノ通り宗教ノ教師ニナルニハ、或ハ中學校、若シクハ高等女學校ヲ卒業シテ居ラナクチャイケナイトカ、或ハ相當專門ノ修業ガナクテハイカストカ、或ハ缺格條項ト致シマシテ、準禁治產者デハイケナイ、禁治產者デハイケナイ、未成年者デハイケナイ、或ハ禁錮以上ノニ刑ニ處セラレタル者ハイケナイトカ云フ缺格ノ條項ガ列舉シテゴザイマス、之ヲ見テ居リマス、現下ノ我が國ノ宗教教師トシテハ、斯ウ云フ條項ニ適ハヌヤウナコトガアツテハイケナイトハ思ヒマシタケレドモ、諸テ之ヲ一律ニ法條ニ規定致シマスルト、コッチノ宗旨ニハ非常ニビツトリト嵌リマスガ、アツチノ宗旨ニ取ツテハ低過ギル、或ハソチヲノ宗旨ニ取ツテハ嚴格過ギルト云ツヤウナ工合デ、何分宗教團體ノ數ガ多イカラ、サウ云ツタ風ニ一律ニ決メニクイ、寧ロ宗教團體ノ規則ニ讓ツテ置イテ、サウシテソレハ何レ主務大臣ノ認可ニ依ツテ制定サレルモノデゴザイマスカラシテ、其ノ際ニ當該宗教團體ノ實情ニ即應シテ、都合ノ好イヤウナ教師資格ヲ其ノ規則ニ掲ゲタ方ガ妥當デハナカラウカ、斯ウ云ツヤウナコトモゴザイマシテ、宗教團體ノ規則ニ讓ツタヤウナ次第アリマス、サ

ウ云ツヤウナアラマシカラ、段々條文ヲ減ジマシテ、御覽ノ通り三十七條ト相成ツヤウナ次第デゴザイマス、從ツテ此ノ第二ノ理由トシテ申上ゲマシタ命令ニ讓リマシタ點モ多クゴザイマス、法文ノ中ニ認メテ「勅令ノ定ムル所ニ依リ」、「命令ノ定ムル所ニ依リ」ト書イテ置イタノデゴザイマスガ、ソレ等ノ内容ニ付テモ御審議ノ必要上、アラマシデモ知ツテ置キタイト云フ只今ノ仰セ、誠ニ御尤モデアリマス、併シ何分ニモ命令ノコトニ關シマシテハマダ私共ニ於キマシテモ最後のノ決メ方迄ハナカク餘裕ガアリマセヌノデ拂ツテ居リマセヌ、併シ御審議ノ御都合モアルカト思ヒマスノデ、若シ御許シガ得ラレ、バ未定稿、ホンノ私共ノ腹案ヲ何レ御手許ニ差上ゲマシテモ宜シイカト存ジテ居リマス、何レ委員長ノ御指圖ニ依リマシテ如何様トモ致サウト思ヒマス

○田所美治君 能ク分リマシタ、前回ノ案カラ御削リニナツタコトハ、又命令ナドモ拜見シタラ能ク分リマセウ、新タニ御加ヘニナツタ事柄ハ條項ハ逐條デ拜見シマスガ、宗教ノ發達ヲ助長シ保護シテ行クト云フ方面、又淫祠、邪教ノ取締、大別シテサウ云フ言葉ニナルドラウト思ヒマスガ、何カ前案立案後ニ、今度ノ案デ御加ヘニナツタ條項ハアリマセヌデセウカ、其ノ趣旨等モ伺レバ……別ニアリマセネバ宜シウゴザイマス

○政府委員(松尾長造君) 只今減ジマシタ方面ノコトニ付キマシテノミ申上ゲタノデゴザイマスガ、新タニ今度加ヘタト云フ方面ハナイカト云フ御話デゴザイマス、甚ダ些細ナコトヲ申上ゲマシヤウデアリマスガ、例ヘバ寺院ノ住職或ハ教派、宗派ノ管長ノ職務權限等ニ關スル所ノ規定ガ一方ニゴザイマシタノニ、從來ノ案デハ矢張り寺院ノ活動上相當重イ役割ヲ演ジテ居リマスル總代、從來ハ檀徒總代、信徒總代ト申シテ居リマスルガ、其ノ總代ニ關スル職務權限等ノ規定ト申シマスガ、サウ云フ條文ガ缺ケテ居ルヤニ思ヒマシタノデ、ソレ等ヲ加ヘタヤウナ次第デアリマス、ソレカラ從來ノ法案デハ宗教團體ノ監督規定ガ漠然ト致シテ居ッタヤニ思ヒマシタノデ、ソレ等ニ關スル規定ヲ明確ニ加ヘタ點ガゴザイマス、ソレカラ從來ノ御意見等ニモ御主張ガアツタヤニ私共記憶致シテ居リマスガ、宗教結社ト本法デ稱シマスルガ、第二十三條ニ規定シテ置キマシタノデゴザイマスガ、詰リ宗教團體以外ノモノデ、教義ノ宣布、或ハ儀式ノ執行ヲ營ミマスル結社、是等ニ關スル取締規定等ガ不十分ダト云フヤウナ御意見モ承ツテ居リマスノデ、ソレ等ニ關スル規定モ加ヘテ置キマシタヤウナ次第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 私大臣ニ一點伺ヒタイト思ヒマスガ、甚ダコシナコトヲ申スノモ如何カト存ジマスガ、此ノ内閣ハ總親和ノ方針デ居ラレル、誠ニ是ハ國民一同其ノコトヲ喜ンデ居ルト存ジマス、動モスレバ矯激ナ思想ガ勝リ制スルヤウナ世ノ中デアリマスノニ、ソレニモ拘ラズ、内閣ガ其ノ弊ヲ洞察サレテ、何處迄モ相剋摩擦ヲ避ケテ行カル、ト云フコトハ、此ノ戰爭ヲ遂行スル上ニ於テモ亦重大ナル問題ヲ總親和、協力シテヤル點カラ言ツテモ誠ニ結構、サウナケレバナラスト思ヒマス、無用ナ摩擦、無用ナ改革ハ避ケナケレバナラスト、是ハモウ實ニ其ノ時ヲ得タ御宣言デアルトシテ深ク喜ンデ居ル次第デゴザイマス、文部大臣ニ於カレマシテモ前内閣以來、動モスレバサウ云フヤウナ矯激ナ風ガ吹イテ居ル所ニ於キマシテモ、能クサウ云フ方面ヲ防ガレテ、穩健ナ思想ヲ鼓吹サレテ此ノ内閣ニモ御留任ニナツテ、サウシテサウ云フ總親和ノ方針ニ則ツテ努力サレルト云フコトハ、誠ニ文部大臣ノ御方針トシテモ結構ナコトト思ヒマス

ス、率直ニ申上ダレバ、動モスレバ文部大臣ノ御考ニ付テハ世間ニ誤解ガアツタコトハ事實デアリマス、私此ノ間アタリノ内閣ノ御宣言ヲ見、又或ハ此ノ宗教團體法案ノ内容ヲ見テモ、如何ニ相剋摩擦ヲ避ケルコトニ努メラレタカ、文部大臣ニ對スル誤解ナシカモ此ノ宗教團體法案ヲ見タダケデモ解決サレテ、スツカリ一掃サレタコトト思ヒマス、私モ此ノ點ニ於テ深ク喜ンデ居リマスガ、ソレデ唯併シ法案ノ工合ガ非常ニ良ク出来マシテモ、之ニ對スル運用ガ宜シキヲ得ナイト目茶苦茶ニナル、世間ニ能ク此ノ頃流行リ言葉デ制度組織ヲ變更シロト云フコトヲ頻リニ言ハレル、ソレガ必要ガナイト云フノデハナインダガ、動モスレバ制度組織ヲ變更スルト云フコトニサヘスレバソレデ宜イノダト云フヤウナ風ニ觀ル者モアリマス、併シサウデヤナイノデ、運用ガ大事ナンド、一番運用ガ大事デアツテ、制度ヤ組織ハ實ハドウデモ宜イ、運用サヘ宜ケレバソレデ結構、ソレデ丁度此ノ宗教團體法案ガ決定ニナリマシテ、サウシテ是カラ執行サレルト云フコトニナツテ、其ノ初代ノ執行ノ任ニ當ラレル方ハ現文部大臣、誠ニ其ノ初代ノ方ノ責任ト云フモノハ重イモノデアリマス、ソレデ私ノ茲ニ質問致シタイコトハ、

ドウカ其ノ相剋摩擦ヲ避ケルト云フ趣旨ヲ此ノ宗教團體法案ニ對シテ能ク熟考セラレマシテ、又兎ニ角初メテノコトデアリマスカラ、無論國體ニ反スルヤウナコトハ是ハ極力排撃シナケレバナラス、是ハ無論ノコトデアリマス、サウデナイモノハ成ルベク寛大ナ處置ヲ執ラレテ、サウシテ少シハ間違ッテモソコイラノ所ハ勘辨シテ、サウシテヤツテ戴イタナラバ、其ノ内ニ段々ニ民間ノ方デモ慣レテ參リマス、ドウカ穩カニ之ヲ御執行ニナツテ戴キタイ、サウシナケレバ折角斯ウ云フ相剋摩擦ヲ避ケタル法案ヲ御出シニナツテ見タ所デ、執行ノ上ニ何モ效果ナキコトニナリハシナイカト思ヒマス、分リ切ツテ御質問デハゴザイマスケレドモ、此ノ點大臣カラ一通リ御話ヲ受ケテ置クコトガ將來ニ大イナル影響ヲ生ズルコトト考ヘマスカラ、其ノ點ヲ一ツ伺ッテ置キタイト思ヒマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今御尋ネノ點ハ誠ニ御尤ナ御尋デアリマシテ、出來得ル限り此ノ法案ノ中ニモ規定シテ置キマシタ如ク各宗教團體悉ク傳統ノ精神、其ノ慣習ヲ尊重スル、同ジヤウニ各宗教ノ間ニ於テモサウ云フ意思ヲ以テ出來得ル限りオ互ニ其ノ傳統ノ精神、又習慣等ヲ尊重シテ、

而シテ此ノ制定ヲセラレマスル精神トシマシテ今迄是ナキガ爲ニ或ハ不明ナ條文ノ爲ニ、宗教團體ト他ノ方面トノ疎隔ヲ生ズル場合モアツタノデアリマス、仰セノ通りニ運用ハ固ヨリノコト、其ノ目的ヲ以テ此ノ制定ヲ致シマシタヤウナ次第デアリマス、殊ニ時局下宗教ノ各方面ノ活動ガ此處ニ著意セラレテ、先般來屢、首相初メ各閣僚ガ申述ベテ居リマスルヤウニ、我が國ノ基礎ノ精神ハ、即チ根本ノ精神ハ更ニ此ノ點ニ付テハ廣イ精神ヲ以テ、總テノモノヲ包容シソレゾレ其ノ特徴ニ應ジテノ所ヲ發達セシメテ、五ニ皇謨翼贊ニ邁進スルコトデアリマスノデ、サウ云フ精神ニ宗教家ノ方ニ於テモ十分ニ注意ヲシテ宗教ノ活動ヲスルヤウニモ致シタイト思ッテ居ルノデアリマス、ソレ等諸般ノコトヲ我が國ノ教ニ基ケバ此ノ點ハ仰セノヤウナコトガ總テ出來ルコトト存ジマス、從ッテ宗教家ニ於テハ特ニ左様ナコトモ注意シテ貰ヒ、又主務省トノ間ニ於テハ十分御意思ノ點ヲ承リマシテ、運用ニ於テ誤リナキコトヲ期シタイト思フノデアリマス

○子爵大河内輝耕君 尙一點伺ヒタイノデスガ、其ノ前ニ法律問題デスカラ政府委員ニ豫備ニ伺ヒタイ、此ノ前ノ法案デハ宗教行爲ヲ罰シタヤウナ條文ガアツタノデアリマス、何デモ國體ニ反スルトカ、法律ニ反スルヤウナ宗教行爲ハ罰セラレルトカ何ト云フコトガアツタヤウニ思ッテ居リマスガ、今度ハナイデスネ、ソレデ法律關係デドウナリマセウガ、例ヘバ神社ニ參拜シナイト云フヤウナコトヲヤツテ居ル教派モアルヤニ承ッテ居ル、是等ニ至ッテハ實ニドウモ言語道斷デアアル、ドンナ嚴罰ヲシテモ宜イト思フ、ソレデサウ云フコトハ何デアリマスカ、法律關係デ此ノ宗教團體法案デ何カ禁ズルト云フコトモナイガ、罰スルトカ何ト云フコトデモアルノデアリマスカ、若シ是デイケナケレバサウ云フ團體ハ解散ヲ命ズルトカ、極度ノ制裁ヲ與フルト云フコトハ何カ出來ヌノデアリマセウカ、其處ノ法律關係ヲ豫メ承リタイ

○政府委員(松尾長造君) 只今ノ御尋ノ點ハ此ノ本回ノ法律案ニモ考慮致シマシテ、十六條、十七條等ニ其ノ點ハ認メテ置イタ積リデゴザイマス、著シクサウ云フコトヲヤリマシテ、不當ナコトヲヤルヤウデアリマスレバ、宗教團體ニ對シテ或ハ制限ヲ加ヘルトカ、禁止ヲ加ヘルトカ、或ハ教師ノ教務停止ヲスルトカ、甚シイ場合ニ於キマシテハ宗教團體ノ設立ノ認可ヲ取消スト云フ

コトニ依リマシテ、取締リタイト存ジテ居
リマス次第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 個人ガサウ云フコト
ヲアレバ、是ハ如何トモ致方ガナイガ、ソ
レハドウ云フコトニナッテ居リマスカ

○政府委員(松尾長造君) 其ノ點モ非常ニ
御尤ナコトト私共モ伺ヒマス、從ッテ研究ノ
際ニモ考ヘタノデゴザイマスルケレドモ、
宗教團體法案ト致シマシテハ、個人ノコト
迄ハチョット、律シタイノダケレドモムツカ
シイト思ヒマシテ、今回ハ削除致シタノデ
ゴザイマス、仰セノ點ハ多分、甚ダ推察ヲ
申上ゲテ相濟ミマセスケレドモ、前案ニ於
キマシテモ一條アツタヤウニ存ジマス、例ヘ
バ普通人ガ、詰リ私共ミタヤウナ宗教家デ
ナイ者ガ生業トシテ宗教ノ教義ヲ宣布シ儀
式ノ執行ヲシテ、サウシテソレニ依ッテマア
生業ノ途ヲ立テルト申シマセウカ、生活ノ
資ヲ稼イデ居ルト、サウ云フ者ハ規定ニ依ッ
テ罰シヨウト云フ規定ガアツタノデゴザ
イマスケレドモ、是モ個人ノ行為デア
ルシ、ソレカラ段々考ヘテ見マスト、是ハ
宗教團體保護ノ規定デヤナカラウカ、マア
宗教團體ヲ保護スルノハ宜イケレドモ、斯ウ
云ツタヤウナ個人ノ行為、而モサウ云フコ
トヲスルヤウナ奴ハマア品格モ下等ナ、詰

リ坊サンノ眞似ヲシテ口過ギマスルト云フ
ノデゴザイマスカラ可ナリ下劣ナ人間デナ
イカ、又其ノ數モ少クハナイカト云ツタヤ
ウナコトヲ考ヘタモノデスカラ、今回ハ思
ヒ切ッテソレヲ削除シタヤウナ次第デゴザ
イマス

○子爵大河内輝耕君 大臣ニ伺ヒマスガ、
是ハ政府委員カラデモ御尋ニナレバ御分
リダラウト思ヒマスガ、是ハ宗教團體法案
ハ即チ宗教法案ト云ヒマシテ、宗教行為全
體ヲ拘束スル法案デアツタ、處ガ委員會ノ
中デ、私共ハソナコトハ言ヒマセスガ、
隨分ヤカマシイコトヲ言ツタ人ガアツタ爲
ニ、其ノ意見ヲ參酌シテ宗教團體法案ト變
ヘラレタト思フ、サウシテ此ノ間ノ本會議
ニ於ケル御説明ノ場合ニモ、思想問題ト重大
ナ關係ガアルト云フコトヲ言ハレル以上
ハ、サウ云フ不都合ナ行為ヲシタ者ヲ法
律上デ罰スルコトモドウスルコトモ出來
ナイト云フコトハ甚ダ穩カデナイト私ハ思
フ、ソレデ今ノ、之ニ依ッテ營利事業ヲヤ
ルカライカヌトカ、其ノ位ノコトナラ私共
ハドウデモ宜イト思フ、併シナガラデス、
神社ニ參拜シナイト云フヤウナコトニ至ッテ
ハ實ニ是ハ許スコトガ出來ナイ、一日モ許
スコトガ出來ナイ、ソレデソレハ詰ラヌ人

間バカリダト仰シヤイマスガ、テヨット速記
ヲ止メテ下サイ

○委員長(伯爵柳原義光君) 速記中止

(速記中止)

○委員長(伯爵柳原義光君) 速記ヲ續ケ
テ……

○子爵大河内輝耕君 サウ云フ譯デスカラ
此ノコトハドウモ法律上罰シナイデ放ッテ
置クト云フヤウナコトハ實ニドウモ、所謂
精神教育、或ハ思想問題ノ上カラ容易ナラ
ザル私ハ問題ダト思フ、此ノ點如何御考
ニナリマセウカ、ソレナラバ別ニ何カヤル
ト云フ思召ナラバソレデ宜ウゴザイマス
ガ、ドウシテアンナコトガ許サレテ居ルノ
カト思フノデゴザイマス、法律トシテモ是
ハ看過スルコトハ出來ナイト思フノデアリ
マス、如何ナモノデゴザイマセウカ
○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 只今ノ御尋
ハ神社參拜ノコトデゴザイマス、ネ
○子爵大河内輝耕君 神社參拜ガ……神社
ヘ行ッテ參拜シナイ者ガアル、自分ノ方ノ宗
教トシテハ斯ウ云フコトハ許サレナイカラ
參拜シナイノダト云フコトヲ言ッテ居ル者
ガアル、斯ウ云フ者ヲ法律ハ看過シテ置ク
ベキモノデナイト斯ウ思ヒマス
○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 神社ガ國家

ノ神祇ヲ奉齋シテ國ノ宗祀トシテ報本反始
ノ教ヲ……誠ヲ致スモノデアル、故ニ帝國
臣民ハ何人ト雖モ、如何ナル宗派、宗教ニ
歸依シテ居ル者ト雖モ、宗教ニアラザル國
外ニアル我ガ國ノ國民ノ道ヲ守ル者トシテ
ハ必ズ參拜シナケレバナラスモノト私ハ信
ジテ居リマス、從ッテ若シ之ニ背クヤウナコ
トガ宗教團體トシテ若シハ宗教結社トシ
テアリマスルナラバ、是ハ本法第二條ニ依
ル所ノ帝國ノ臣民トシテノ本義ニ背クモノ
トシテ、是ハ宗教トシテ認メルコトハ出來
ナイト思ヒマス、個人トシテ爲ス場合ニ於テ
ハ自ラ之ニ對スル制裁ハ他ノ方法ヲ以テ執
ルコトガ出來ルト存ジマス、斯クノ如ク思ッ
テ居リマス

○子爵大河内輝耕君 政府委員ニ伺ヒマス
ガ、サウ云フコトヲシテハ惡イト云フ法律
上ノ根據ヲ一ツ出シテ下サイ

○政府委員(松尾長造君) 若シモ宗教團體
或ハ教師等ガ、教義ノ上カラ我ガ國ニ於テ
神社參拜ヲ拒ムヤウナ、或ハ人ヲ參拜サセ
ナイヤウナ若シモサウ云フ不料簡ナ眞似ヲ
スルヤウデゴザイマスレバ、ソレハ明カニ
安寧秩序ヲ紊ス者デアル、少ク共公益ヲ害
スルト云ツタヤウナコトニ相成ラウカト存ジ
マスルノデ、其ノ點ハ一ツ嚴ニ本法ニ依ッテ

律シテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、併シ若シモ個人々々ノ行爲デゴザイマスレバ、是ハ詰リ本人ノ修養ガ足りナイト云フノカ、帝國臣民トシテノ自覺ガ足りナイト云フノデアリマセウカラ、是ハ個人的ニ一ツ指導シテ、サウ云フ過チニ陥ラナイヤウニ指導シタラバ如何ナモノカト斯ウ考ヘテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 ソレハ其ノコトニ付テハ法律上ニ之ヲ禁ズル法律ナシト、斯ウ私ハ認メテ置キマス、ソレデ私ハ是以上ハモウ議論ニナリマスカラ其處デ止メテ置キマス

○子爵岡部長景君 資料ノ提供ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、私ハ此ノ宗教關係ノ法案ニ付テノ委員ニナッタノハ今度初メテナッテ、一向餘リ研究シテ居ラナイノデスカラ、或ハ皆サンノ御存ジノコトカモ知レマセヌガ、此ノ法令ノ上ニ宗教ト云フ文字ヲドウ云フ風ニ使ッテアルカ、其ノ用例ヲ一ツ調べテ見タイト思ヒマス、或ハ御調ニナッタモノガアレバソレヲ出シテ戴キタイト思ヒマス、ソレカラ尙宗教ト云フモノニ付テノ定義ト申シマスガ、解釋ト申シマスガ、一ツノ……今大河内君ノ質問モソレニ觸レテ居ルト思ヒマスガ、宗教ト云フモノノ意義ヲハッキリ

先ヅ頭ニ入レテ掛カリタイト思ヒマス、其ノ參考ニナル資料ヲ一ツ御提供ヲ願ヒタイ

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 宗教ニ關スル定義ハ可ナリ今迄ニ述ベラレタ人ガアルガ、マア一般的ナ通念ニ從フヨリカ仕方ガナイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、今集メタモノハ資料ヲ差上ゲマス、可ナリ之ヲ御覽下サツタ上ニ又……

○子爵大河内輝耕君 私モ此ノ場合資料ヲ要求シテ置キマスガ、實ハ此ノ前ノ審議ノ時ニ私ハ修正案ヲ出シテ居ル、自分ノ出シタ修正案ヲソナコトヲ言フトロカシウゴザイマスケレドモ、是ハ大體文部省ノ方ノ當局ニ於テ御認可ニナッタ案デス、ソレデソレトノ違ヒガ何處ニアリマスガ、大體ノコトデ宜ウゴザイマスカラ、一ツ書イテ出シテ戴キタイ、ソレカラ只今ノ……餘リ長クナッテモナンデスガ、モウ一ツ今ノ質問大臣ノ御意見ダケ伺ッテ置キタイ、斯ウ云フヤウニ、今ノヤウニ斯ウ云フ不都合ナコトヲヤツタ者ヲ罰スル法規ガ無いノダト云フコトハ甚ダ法律トシテ、立法トシテ面白クナイヤウニ思フ、修養ダケデ行カウデヤナイカト云フノダケレドモ、ドウモソナナ不都合ヲシタ者ヲ許シテ置クベキモノデナイト思フノデスガ、如何デセウカ、矢張り修養デ行ク

ノデ、法律ハ必要ナイト云フ御意見デセウカ

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 宗教ノ方ノ關係スルモノニナリマスレバ、是ハ宗教ノ解散若シクハソレニ對スル罰則ヲ設ケテアリマス、宗教ヲ離レテ個人ニナリマスレバ、此ノ法律案外ニナリマスルカラ、是ハ別ノ問題デアルト思ヒマス、ソレヲ公式ニ表明ヲシテ、神社ニ參拜シナイト云フヤウナコトヲ公式ニ表明スル場合ノ制裁ハ色々他ノ法律ニ於テアルノダラウト思ヒマス、此ノ法案ハ宗教トシテノモノヲ總テ對象トシテ居ルノデアリマスルカラ、個人ノ方ノ問題ハ此ノ中ニ規定スルコトハ如何カト思ヒマス、殊ニ神社ノ方ノ關係ハ神社法規ニモアリマスルシ、神社ハ宗教圈外ニ在ルモノト云フ建前ヲ執ッテ居ラレル我ガ國デアリマスルカラ……

○子爵大河内輝耕君 サウ云フ御答ガアルノダラウト思ッテ、ウルサク二度伺ッタノデスガ、今政府委員ノ御答デハサウ云フ法規ガナイト云フ御答デアリマス、個人ノ方デサウ云フコトヲシタ者ハ、神社ト云フ御話デスガ、神社ト云フケレドモ神社バカリデヤナイ、一體國體ニ反スルヤウナコトヲヤル奴ガアルノデス、表面外ヘ出シテサウ云

フモノヲ抛ッテ置クト云フコトハ私ハナイト思フ、ソレデアアルカラ申上ゲルノデスガ、何モ宗教ト云フ法案ニサウ窮屈ニ解釋シナイデ、此處ニ折込ンデモ宜シイシ、私一個ノ考トシテハ宗教團體法案ト云フモノデナクテ、宗教法案デ以テ打ッテ出タ方宜イ、サウ云フモノヲヤッテシマフノモ宜イト思フノデスガ、百歩譲ッテ名前ハ宜イニシテモ、此ノ中ニ御規定ニナッテモ宜イシ、此ノ中ニ規定ガ出來ナイト云ッテ頑張ル程ノ問題デヤナイドコロデヤナイ、寧ロ進ンデ規定サルベキモノデヤナイカ、若シサウ云フ規定ガ出來ナケレバ、政府委員ハ今ナイト云ッテ居ルノデスカラ、外ニ之ト關聯シテ何カ法律ヲ御制定ニナル、サウ云フコトニ付テ看過スルコトガ出來ナイ、道德モ看過シナイ、法律ト雖モ看過スルコトガ出來ナイ、神社バカリデナイ、神社ハ一例デスケレドモ、國體ニ反スルヤウナ行爲ヲ爲シタル者ハ看過スルコトガ出來ナイト云フコトハドウシテモ法律トシテ抛ッテ置クコトガ出來ナイト思フノデスガ、如何デスカ

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 此ノ中ニ規定スルヤ否ヤノ問題デスガ、ソレハ宗教トシテノ此ノ罰則ト共ニ、若シサウ云フヤウナ人倫ニ反スルヤウナ行爲ガアリマスレバ、

最モ重キコトニナリマスレバ、國體トシテ治安維持法ナドモアリマスシ、其ノ範圍内ニ於テハサウ云フコトト並行シテ解散スルト同時ニ、一般ノ法律ト云フモノガ其處ニアル、國法ヲ犯スヤウナ、國體ヲ認メナイ、或ハ國體ニ反スルヤウナコトニナレバ、相當ナ制裁ノ法律ガアラウト思ヒマス、並行シテ行クコトデ結構デハナイカト、斯ウ云フ風ニ思ヒマス、從テ此ノ中ニ特ニサウ云フコトヲ規定スルコトハ如何カト、斯ウ考ヘマス

○子爵大河内輝耕君 此ノ中ニ規定スルヤ否ヤハ水掛論デ止シテ置キマス、是ハ私ハヤッテモ宜イト思フノデスガ、是ハヤレナイト仰シヤレバ仕方ガナイ、併シ外ニアルト云フコトニナレバ、法律論トシテ考フル餘地ガアルト思ヒマス、政府委員ハ今ナイト仰シヤル、併シアルヤウニ大臣ハ御説明ニナル、アルカナイカ明カニシテ置キタイ、此ノ前ニ政府委員ニ右カ左カ答ヘロトハ申シマセヌ、一ツ御研究ニナリマシテ材料ノ御提供ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ法規デ行クノダト云フコトヲ承レバ満足ガ行ク、大臣ノ御話サレルヤウナ臣民タル義務ニ反スルヤウナ……、神社ハ一ツノ例デゴザイマスカ、サウ云フ行爲ヲスル者ガアレバ無論宗

教法案ニ關聯シテ居ルカラ、宗教カラ來テ居ルモノデ宜シイノデスガ、サウ云フコトヲヤル者ガアルノデスカラ、ドウカ其ノ材料ヲ御提供ヲ願ヒタイ、其ノ上デ又伺ヒタイト思ヒマス

○子爵舟橋清賢君 私モ材料ヲ一ツ頂戴シタイト思ヒマス、神道各派ノ教典ト云フモノガ、簡單ニ理解出來ルヤウナモノデアリマスルナラバ、此ノ際頂戴シタイ、サウシテ各派ノ教祖ノ經歷等ガ御調査ガアリマスレバ、サウ云フモノヲ一ツ書イテ頂戴シタイト思ヒマス、又中ニハ教典ト申シマスカ、或ハ教典ノ淵源ト申シマスカ、例ヘバ大本教ノ教祖ノ御筆先ト云フヤウナモノガ、現在公認シテ居ル宗教ノ各派ノ中ニアルヤウニ聞イテ居リマス、サウ云フモノガ大部ノモノデアリマスレバ兎ニ角デアリマスカ、簡單ニ一見シテ分ルヤウナモノガアリマスレバ、此ノ際參考書トシテ頂戴シタイト思ヒマス、元來佛教トカ、耶蘇教トカ云フモノハ我々ガ常識的ニ承知シテ居リマスカ、神道各派ノ由來ト云フモノガ、我々素人ニハチョット分リ難キマスノデ、其ノ爲ニ參考トシテ提供ヲシテ戴キタイト思ヒマスカ

○政府委員(松尾長造君) 只今ノハ御尤デゴザイマスカ、神道各派ノ傳統ト云フコト

ニナリマスレバ、大部ノモノニナリマスノデ、系統ヲ認メマシタリ、教義ノ大要ト云フモノヲ認メマシタ程度デ宜シウゴザイマセウカ

○子爵舟橋清賢君 其ノ程度デ結構デゴザイマス

○男爵千秋隆君 私モ只今皆サンカラ研究材料ノ提供ヲ御申出ニナリマシタガ、其ノ御序ニ政府ノ方ノ御調べ下サツタ材料ガ出來マスレバ御出シヲ願ヒタイト思ヒマス、私ハ速記ヲ止メテチョット申上ゲタイト思ヒマス

○委員長(伯爵柳原義光君) 速記ヲ止メテ

〔速記中止〕
〔速記開始〕

○委員長(伯爵柳原義光君) 速記開始、下村君

○下村宏君 問題ガ少シ全體ニ互ルノデスガ、自分達今迄日本ノ宗教ニ付テ感じテ居ツタ問題ハ、歐米ナドニ比較シテ、ドウモ宗教ノ活動ト云フモノガ鈍イ、ソレデ歐米デハ御承知ノ通り自分ノ國內ニ於テモ更ニ國外ニ於テモ相當ニ皆活動シテ居ルガ、日本ノ宗教ハマア排佛毀釋トカ色々ナコトガアツタ爲デモアリマセウガ、恐ラクハ外國

ニ比較シテ宗教ニ對スル世間ノ關心ガ薄イノデヤナイカ、其ノ宗門ニ屬スル人材モ少クトモ維新以後ハ少クナツタ、ソレカラ海外デハ隨分資産家ナドガ巨額ノ金ヲ寄附スルガ、サウ云フ資金モ足りナイ、色々ナ理由ガ相俟ツテ居ルト思フノデスガ、兎ニ角歐米ナドニ比較シテ日本ノ宗教ノ活動ハ比較的鈍イヤウニ私ハ思ヒマスガ、之ヲ第一ドウ御考ニナルカ、ソレカラ假ニ比較的鈍イトシタラ、先ヅ其ノ現狀ノ程度デモ宜イノダ、假リニ佛教デ言ヘバ、唯葬式トカ法要トカ言ッテ、現在ノ程度デ居ルノデモ、之ニ自然ニ委スヨリ仕方ハナイノダト言フノカ、サウデナイ、モウ少シ一ツ此ノ宗教ト云フモノガ一般ノ國民ノ人心ナリ、モウ少シ國策ノ上ニモモット動かナケレバナラヌト言フノカ、此ノ宗教團體法案ハ大體ニ於テ統一シ、整理スルト云フノデ、ドウシテモ法規ト云フモノハ多クノ場合ニハ消極的ニ監督スルトカ、制限スルト云フコトガ主ニナルノデアリマスガ、一體宗教ト云フモノハ監督スルトカ、制限スルモノデハナイノデアル、積極的ニ我々ナリ、世ノ中ニ働イテ貰ハナケレバナラス、場合ニ依レバ、相當資金ナリ其ノ他色々ノ援助ナリシテ、モウ少シ活動サスヤウニサス、モット

此處ニ人材モ行クト云フヤウニナライト、何ダカ日本ノ明治維新以後ノ殊ニ佛教ノ如キハ私ハ所謂萎靡シテ振ハナイノデハナイカ、是デ果シテ宜イノカ、内地ニ於ケル宗教ノ活動ヲ見テモ然リ、更ニ臺灣朝鮮等ニ於テ然リ、今度ノ時局ニ際シテ矢張り東亞新建設ノ上ニハ宗教モ相當活動シナケレバナラヌト云フノデ、戰地ト言ハズ、文部省デモ之ニ留意セラレテ、色々御計畫ニモナツテ居ルヤウニ承知シテ居リマスガ、今度ハイツニナイ各宗教團體デモ滿洲等ノ宗教ノ動キニ付テ大分關心ヲ有ツテ來テ居ルヤウニ思ヒマスガ、是ハ私斯ウ云フモノデナクシテ、滿洲ナリ支那ニ於ケル現狀ナリ、又ハ其ノ將來等ニ付テノ調ナリ、又御意見モ承リタイノデスガ、何カ矢張り私、國トシテハ大キナ國策ヲ樹テテ、一體日本ノ宗教ト云フモノヲドウ云フ風ニ是カラ動カシテ行クカト云フヤウナ點ニ付テモ、考慮シテ戴キタイ、斯様ニ思フノデアリマス、之ニ伴ウテ又色々ノ質問ヲスルノデアリマスガ、マア其ノ根柢ノ問題ニ付テ御意見ヲ伺ヘタラ仕合セト思ヒマス

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 御話ノ通り

ニ、宗教ノ活動ガ我々期待シタ程迄ニ十分ニ満足シ得ナイト申シ得ル點ハ、是ハ認

メザルヲ得ナイト思ヒマス、宗教ヲ通ジテ……其ノ活動ヲ盛ニシ、各宗教ニ歸依シタル人ノ宗教ヲ通ジテノ時局ヘノ活動ト云フヤウナコトハ、最モ必要デアルト思ハル、ノデアリマス、其ノ爲ニ此ノ法案デモ、先ヅ今迄全ク基礎ガハッキリシテ居ラスノデ、非常ニ不安定ナモノモアリ、又財産的ニモ不安定ナモノモアル、サウ云フモノノ安定ヲ致サシテ、基礎ヲ造ツテ、而シテ今後其ノ宗教各團體ノ活動ヲ一層盛ニシテ行キタイト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、其ノ爲ニハ必要デアレバ、國トシテ或程度ノ一ツノ大キナ教化機關トシテ考ヘテモ宜シイノデハナイカトマデ實ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレニ此ノ法案デ基礎ガ出來マスレバ、一方ハ活動ニ向ツテ、今モ御指摘ガアリマシタヤウニ、多少淫祠邪教ニ近イヤウナモノガアレバ、又或ハ日本ノ國法ニ副ハナイ或ハ國體ニ副ハナイヤウナモノガアレバ、ソレハ段々是正シテ行クト云フコトモ出來ヨウト思ヒマスルシ、而シテ今丁度御話ガ出マシタ神社ト各宗教トノ關係モ茲ニハッキリ意識ヲ致シマシテ、神社參拜、宗教ヲ通ジテノ自己ノ教養及臣民トシテノ分ヲ盡シテ行クト云フヤウナコトヲハッキリサシテ、十分活動サセルヤウニシテ行キタイ、殊ニ今

御指摘ノ支那ニ對スル所ノ宗教ノ活動ハ、列國ノ情勢ヲ見テモ大イニ考ヘネバナラズ、又新シク企畫モセネバナラヌト考ヘテ居リマス、御說ノ通り此ノ儘デ満足スルニ非ズシテ、之ヲ基礎トシテ十分ナ活躍ヲシ、新時代ヲ造ラスルコトガ必要デハナイカト、斯様ニ考ヘテ居リマス

○下村宏君 尙此ノ委員會ノ席上デ宜イノカモ問題デアリマスガ、滿洲ノ宗教問題ト云フモノガ是カラノ日滿ノ關係其ノ他ニ非常ナ影響ヲ持ツテ居ル、一面ニ在來カラ滿洲ニ於ケル天主教其ノ他幾多ノ宗教ガ實力ヲ持ツテ動イテ居ルシ、又御承知ノ佛教トカ道教トカ云フモノハ事實ハ形ハナイノデアリマス、眞ニ有識階級ト云フモノガ相當活動シテ居ルノハ、矢張り海外ノ宗教、歐米ノ宗教デアリマス、ソコヘ又日本カラ移民ナリ其ノ他多數行ツテ居ルノデアリマス、朝鮮ノ移民モ隨分行ツテ居ル、此ノ滿洲ニ於ケル宗教ノ問題ニ付テハ、無論日本ノ當局ガ直接ハ關係アリマセヌガ、矢張り十分聯繫ヲ取ツテ相當ノ考慮ヲ願ハナケレバナラス、何レニ致シマシテモ、一ツ國內ニ於ケル宗教ノ活動ヲ良クスル、同時ニ最モ是等ノ矢張り統治教化ガ必要デアル臺灣ナリ朝鮮等ニ於ケル又日本ノ宗教ノ動キハ是亦餘リニ貧弱

デアル、現ニ日本ノ領土ト言ヒナガラモ、サウ云フ現地デハ佛教其ノ他ノ動キハ見ルベキモノハ殆下ナイノデアリマスガ、是等ニハ、人ト物ト言ヒマスカ、金ト言ヒマスカ、是等ガ兩々相俟タナケレバナラヌト思フノデアリマス、若シ宗教局ノ當局デ尙サウ云フ方面ノ比較シタ何々資料カサウ云フモノヲ會期中ニ頂戴出來タラト、サウ云フ希望モ併セテ御願シテ置キマス

○子爵大河内輝耕君 只今下村サンカラ大變有益ナ御質問ガゴザイマシタ、實ハ私モサウ云フコトヲ伺ヒタイト思ツテ居リマスガ、驥尾ニ附シテナンデスガ、突然コンナコトヲ申シテ甚ダ恐縮デスガ、只今直ク御即答ニナレナケレバ、後ノ機會ニ大臣カラ御答ヲ戴キマシテモ結構デスガ、支那ノ思想ヲドウ教化シテ行クカ、支那ノ宗教ヲ解決スルニ於テハ、先ヅ根本問題トシテ、其ノ思想ヲドウシテ行クカト云フコトハ餘程問題ガラウト思ヒマス、何カ大和魂ヲ持ツテ行クト云フヤウナコトモアルヤウデスガ、之ヲイキナリ持ツテ行クト言ツデモ容易デヤナイデハナイカ、アノ四億ノ人民ヲ擧ゲテ忠良ナ人民ニシヨウト言フデモ、ナカ／＼ムヅカシカラウト思ヒマス、差向キ善良ナ人民ニナレバ結構ダト思フ、是ハ私共素人

デ一向分リマセヌ、サウ云フコトハ思想ヲ掌ル文部省トシテハドウシテモ考ヘナケレバナラヌ點デヤナイカト思ヒマス、大體ノ御話ヲ伺ヘレバ、大變結構デスガ、併シ突然コナコトヲ伺ッテ、御用意ガナクテ分ラヌカモ知レマセヌガ、後ノ機會デモ結構デスガ、今伺ヘレバ尙宜イノデスガ

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 極ク骨子ヲ申上ゲマスト、御承知ノヤウニ今回ノ事變ニ對スル我が國ノ對支方策ノ根本トシマシテハ、東洋ノ新秩序建設ト云フ文字デ言ヒ表ハサレテ居リマスガ、東洋和平、延イテハ世界ノ和平、人類ノ福祉ニ迄行カウト云フ日本ノ本當ノ提テ立ッテ居ルモノデアリマス、從ッテソレカラ申セバ、支那ハ支那、滿洲ハ滿洲、各、自分ノ傳統ノ歴史モ文化モ風俗モ習慣モ是等ヲシテ處ヲ得セシムルト言フカ、志ヲ遂ゲシムルト言ヒマスカ、此ノ御示シニナッテ居ル事柄ヲ其ノ儘國際間ニモ根本ノ精神トシテ持ッテ行クベキモノデハナイ、從ッテ彼等ヲシテ十分ニ其ノ文化ノ中ニ互ニ相携ヘテ行キ得ルヤウニ導クノガ至當デアラウト思ヒマス、從ッテ日本ノモノヲ直グニ其ノ儘彼ニ押シ付ケルト云フコトハ、政策トシテモ適當デナイノミナラズ、根本ノ精神ニ於テスクアルベキモノ

デナイ、斯ウ云フヤウニ考ヘマスノデ、最近唱フル八絃一字ト云フ精神モソコニアルモノト拜聽致シテ居ルノデアリマス、サウ考ヘマスルト、今迄ノ支那ニ行ハレテ居ル所ノ文化ト云フモノヲ基礎トシテ、新時代ニ相應シ、東洋ノ新興ト共ニ「ヨーロッパ」相携ヘテノ世界平和ニ寄與スル所ノモノヲ主體トシテ考ヘルベキデアアル、斯ウ云フ風ニ考ヘマスルト、今ノ支那ノ狀態ガ非常ニ混沌トシテ居ル、其ノ何レカラ持ッテ行クベキカハ餘程研究ヲ要スルノデハナイカ、ソコニ工夫ヲ要スルモノデアッテ、其ノ點ハ十分ニ研究ヲシナケレバ、一言ニシテ之ヲ如何ニスルト言フコトハ困難ト思フノデアリマス、左様ナコトモ逐次政府トシテモ又文部當局モ其ノ點ヲ殊ニ考ヘナケレバナラスト思ヒマス、支那問題ノミナラズ、此ノ日獨伊ノ關係モアリマス、日獨文化協定ノ關係モアリマス、他ノ國ノ文化協定ノ關係モアリマス、旁、ソレ等ノ基礎ヲ調査致シテ居リマスルシ、必要ナ機關モ設備モ必要デアラウト存ジテ、逐次其ノ方面ニ明瞭ナ方針ヲ立テテ行キタイト思ヒマス

○子爵大河内輝耕君 此ノ問題ハ皆一般ニ知リタガッテ居ル問題デアリマシテ、實ハ世間ニ誤解ラシ、非難ヲシテ居ル者モアル

ノデス、例ヘバマア一ツヲ言ヘバ、餘リ窮屈ナコトヲ言フデヤナイカ、一日デ日本人ニナレハシナイト云フヤウナコトモアリ、他ニ色々ナコトモアル、宣撫班ナドガ行ッテ居ルト、何デモ隨分支那人トシテハ到底解リモシナイヤウナコトヲ言ッテ居ルトカ、日本人ニハ直グ解ルケレドモ、支那人ニハ解ラナイコトヲ言ッテ居ルト云フ非難モアル、本當ガカ嘘ダカソレハ分ラナイ、ソナコトモアルマイト思ヒマスガ、世間デモサウ云フコトヲ言ッテ居ル者モ事實アルノデアリマス、若シ指導ノ方法ヲ誤ルト、飛ンデモナイコトニナル、是ハ申上ゲル迄モナイ、只今御研究中デアルト云フコトデアレバ、ドウモ甚ダ遺憾ナガラ、ココマデ何フ譯ニハ參リマセヌデスケレドモ、ドウカ御研究ガ進ムニ連レテ、其ノ一端タリトモ國民ニ知ラシムル、又少クトモ議會ニ於テハ其ノ事ヲ話サレテ、サウシテ議會ノ議員トモ同心協力シテ研究シテヤッテ行クト云フヤウナコトハ、大變舉國一致ト云フ上カラモ必要デアリ、又ドウシテモシナケレバナラヌコトト思ヒマスガ、成ルベク一ツ早い機會ニ、斯ウ云フモノガ解ルダケデ宜シウゴザイマスカラ、御示シニナッテ戴キタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマスカ

○國務大臣(男爵荒木貞夫君) 大體ソノ今ノ研究ト申シテ居リマスノハ、今日ヤル仕事ハ著々其ノ日ニ行ッテ行カネバナラヌカト思ヒマスノデ、現在ノ狀態ニ對スル大體ノ方針トシテハ今申上ゲルヤウナ都合ニ、彼等ノ歴史文化ト云フモノヲ重ンジテ、彼等ガ満足ヲシ得テ、而シテ東洋ノ新秩序建設ニ協力スルヤウナ風ニ持ッテ行キタイ、ソレガ所ニ依リ層ニ依ッテ大分違フダラウト思ヒマス、其ノ所、層ニ依ッテ、段々當然必要ナル處置ヲ執ッテ行クヤウニシタイト思ヒマス、更ニ總括シテ世界ニモ支那ニ對シテモドウ云フ風ニシタラ宜イカト云フコトハ、如何ナルモノ、如何ナルコトガ良イカト云フコトニ付テハ段々進メテ行キタイト思ヒマス、其ノ機關ヲ今工夫シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 切ニ御願ヒシテ置キマスガ、若シ支那ノ思想善導、或ハ教科書ハ斯ウ云フ風ニ變ヘタトカ、或ハ宣撫班ト云フモノハ斯ウ云フ風ニ派遣シテ居ル、又宣撫班ガ向フヘ色々教化ノコトヲ言ッテ歩クニ付テハ、斯ウ云フ風ナ方針デヤッテ居ルンダ、斯ウ云フヤウナ聲明ト云フカ、訓示ト云フカ、演説ト云フカ知リマセヌガ、ヤッテ居ルノダト云フヤウナ材料ガゴザイ

マシタラ、一ツ御提出ヲ願ヒマス

○田所美治君 チョットモウ一ツ伺ッテ置キ

マス、是迄ノ案ニ付キマシテハ、議會デモ、貴族院デモナカ、委員會デ議論ノ非常ニ

紛淆シマシタ上ニ、各派ノ中ニハ可ナリ反對ヲ申出ル者モアツタコトハ委員長モヨク御

記憶ノ通り、私モ關係シテ居リマシタカラ……今度ノ案ハ宗教團體法ト云フモノヲ御

作リニナレバ、大體コンナモノデヤナイカト私ハ考ヘテ居ルノデアリマスガ、神佛、

基督教、是ダケガマア現存シテ居ル、尙今後ニモ新シイ宗教ガ入ッテ、ソレガ律セラレ

ル譯デアリマスガ、新シク來ルヤツハドウモ其ノ代表者モ分リマセヌケレドモ、神佛、

耶蘇教ノ三派ハ、宗教制度調査會委員ニモ其ノ中ノ元老ノ人々ハ加ッテ居ルヤウデア

リマスガ、勘定シテ見ルト、神道ニ二十三派アリ、佛教ニ五十何派アリ、基督教ニ二十

幾ツモアルヤウデアリマスガ、ソレガ各自代表デ委員ニナッテ居ル譯デモナイノデア

リマスケレドモ、大體二三教トモノ意見ハ、今度ノ案ニ對シマシテハ、大體總テノ三教

ノ各派ガ從前ノ如キ異存ハ私ハナカラウト考ヘテ居リマスケレドモ、私ダケノ是ハ參

考デモゴザイマセヌカラ、一應其ノ後ノ本案ニ付テ三教ノ内部ニ於ケル、即チ數十派

アルノデアリマスガ、大體ハマア異議ナイ、斯ウ云フヤウニ心得テ審議ニ掛カッテ宜シウゴザイマスガ、參考ニ承テ置キタイと思ヒマス

○政府委員(松尾長造君) 只今ノ御尋デゴ

ザイマスガ、今仰セニナリマス通りニ、一ヲ調査シタ譯デハゴザイマセヌケレドモ、

一般的ニ申シマス、有ラユル宗教團體ハ贊成ヲシテ居ッテ呉レルヤウニ思ヒマス、宗教

制度調査會ニ十一月ノ初メニ文部大臣カラ本案ノ要綱ガ諮問ニ相成リマシテ、直グ様一

般ニモ之ヲ周知セシメルコトニ致シマシタノデ、各教ノ宗派、基督教ノ教團ニ當ルモノ等

ハ、是ハ十分熟知致シテ居ルヤウニ思ヒマス、ソレカラ今仰セニナリマシタヤウニ神佛教ヲ

通ジテ、其ノ元老ト申シマスルカ、重立ツ人ノ代表者ハ宗教制度調査會委員ニモ加ッテ居ラ

レマス、又神道ノ教派トカ、或ハ佛教聯合會ト云フヤウナモノモアリマスルシ、ソレ

等ニハ招キニ應ジマシテ私共出テ參リマシテ、立案ノ精神ヲ具サニ説明モ致シテ置イ

タノデアリマス、ソレカラ基督教ノ方ハ、主ナル宗教團體ガ聯合致シマシテ、日本基

督教聯盟ト云フモノヲ作ッテ居リマス、是ニモ私罷リ出マシテ巨細ニ、率直ニ説明致シ

マシタ處、全面的ノ贊成ヲ得タノデアリマ

ス、處ガ基督教ニハ其ノ外ニ何ト申シマス、カ、通俗的ニ私共單一教會ト申シテ居リマスガ、何々教會、メソヂスト教會トカ所謂

教會ニ當ルモノ、ソレニ所屬セザル個々ノ教會ト云フモノガ多數存在致シテ居リマス、

又是等ノモノガ日本基督教聯盟ニ入ッテ居リマセヌデ、自然個々ニ存在致シテ居ル

モノデアリマスガ、ソレ等ノモノガ集リマシテ、一度今度ノ宗教法案ニ付テノ概要ヲ聽

カウデヤナイカト云フ催シヲ致シタノデアリマス、ソレニモ私出テ參リマシテ具サニ

御話ヲ致シタノデアリマスガ、大變ソレモ全面的ニ贊成シマシテ、早ク之ヲ作り上ゲ

テ貰ヒタイト云ツタヤウナ希望モ申シ出タヤウナ次第デアリマス、只今ノ處宗教團體

ノ各方面ハ、之ニ對シテ贊意ヲ表シテ居ッテ呉レルヤニ私共ハ考ヘテ居ル次第デゴザイ

マス

○委員長(伯爵柳原義光君) 如何デスカ、本日ハ此ノ程度デ散會ヲ致シマシテ、サウ

シテ明日ハ本會議ガアルヤウニ承ッテ居リマスカラ、午後一時半カラ開キタイと思ヒ

マスガ、如何デゴザイマセウカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

致シマス
午前十一時四十五分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵柳原 義光君
副委員長 男爵松岡 均平君
委員 公爵一條 實孝君
侯爵細川 護立君
子爵大河内輝耕君
子爵岡部 長景君
子爵舟橋 清賢君
子爵千秋 季隆君
小原 直君
岡 喜七郎君
塚本 清治君
下村 宏君
男爵北島 貴孝君
田所 義治君
大塚 惟精君
久保市三郎君
仲田傳之駁君

國務大臣

文部大臣 男爵荒木 貞夫君

政府委員

大藏政務次官 松村 光三君
大藏省主計局長 谷口 恒二君

營繕管財局理事 江口 順一君

文部政務次官 小柳 牧衛君

文部參與官 野中 徹也君

文部省宗教局長 松尾 長造君

文部書記官 橋本 政實君

昭和十四年一月二十五日印刷

昭和十四年一月二十六日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局